

1. オリオン頌歌

オリオンよ 天にうがたれた蒼き虚無よ
これから流される赤き血潮の全てを
あなたに捧げよう
願わくばオレの身体中の血を一滴残らず
吸いおとしてしまわれんことを

オリオンよ エメラルドの3つ星よ
オレの身体は もう溢れでる愛を込めて
引き金を引くところだ
ほら 見えるだろう
あの空に向かって飛んでいく銃弾が

オリオンよ その宿命の3つ星よ
オレの身体は もう溢れでる血の報酬で
すっかりひからびた
ほら 聞こえるだろう
星空に向かって放たれた銃声が

オリオンよ 輝きつづける3つ星よ
地上には まだ偽りの静けさが
薄闇と共にある
教えてくれよ
運命に向かって開かれたその道を

5. BLOCK-25 AUSCHWITZ

BLOCK25?AUSCHWITZ (2times)

列車から 降ろされて
死の門をくぐると 闇が光り輝いてた
生き残る為の 戦いが始まる
錠なんて 此処にはないのさ

髪を剃られ 服を脱がされ
咳きこむ メンゲレの視線を避けながら
電流の通う 鉄条網ごしに
命なんて かすんでいくのさ

ため息で吹き飛ばうような
歯の浮く台詞はやめてくれ
梯子をのぼれば もう屋根の上
もう少し見てやるよ 破壊への儀式
BLOCK25?AUSCHWITZ (2times)

笛が鳴り 並ばされて
アイヒマンの皮手袋を白薔薇が飾る
何もかも 焼却炉の中で
煙にされ 消えていくのさ

だって オレが立っているのは
灰で 固められた道さ
悪臭にも慣れちまう 整形された鼻は
もう少し見てやるよ 燐祭の続き

BLOCK25?AUSCHWITZ (2times)

9. おまえと別れたい

お前はだけ胸がまともに見られない
きゃしゃな体が波打ち
叫び声が部屋を包む

飽き飽きしたぜお前の顔は
苦痛にゆがんでる
なめた態度に腹立ち
悲鳴が部屋を包む

俺の星は何処にあるのさ
何故か心がさみしくなるのに

お前のいやしい悪夢が夜を苦に変える
真の愛の訪れを
今日も待ち続ける

だけどもマリファナだけが慰める
いつか旅に出たい
夢幻の彼方から俺をよび
星を求めつづける

人ごみの中を歩いていても
今だに現れない俺の星は

今すぐやらなきゃならない事は
お前と別れる事さ
浮気なクセは直らない
狂ったはげたかにゃ戻れない

12. 綺羅と紛れて

ガード下の暗闇に 背中を丸めながら
身を潜めてたけれど 目は夢を見てた
夜も醒めやらぬ都会の朝もやの中へと
走り出してた奴を 何故誰も止めない

少女は母親になり何を失くしたんだろ
そして少年は何を捜してたんだろ
いまじゃ荒川の土手に座って河を眺めてる
宛名のない手紙を破り捨てながら

ゆるやかにうねり 河は流れつづける
綺羅と紛れてく 過ちも何もかも
Oh Return to the sea
Return to the sea

狙われて刺された奴の残したフィルムに
映るあの目々から目をそむけるなんてさ
口じゃ何でも云える だけど奴は帰らない
ただ水面上に舞い散る綺羅と流れて

ゆるやかにくねり 河はさざ波立てて
綺羅と紛れてく 悲しみも何もかも
ゆるやかにうねり 河は流れつづける
綺羅と紛れてく 俺たちもいつの日か
Oh Return to the sea
Return to the sea

2. ダー・ダー・ヤー・ヤー

泥沼を腰までつかり オレ達は歩いているよ
暗闇に照明弾が オレ達を探しているよ

冷えきった身体 いつのまにか眠りこけてた
夢の中で数えてた息を吐く数を
オレは 見つからなかった

流木と間違えたのは バラバラの手と足だった
波紋ささえる沼地では 夜に飲み込まれてしまう

水に潜むもの 地を敷くものを讀え
闇の中で かじついた天に叛いても
キミは 見つからなかった

だからダー・ダー・ヤー・ヤー 呼び覚ましてくれ
ダー・ダー・ヤー・ヤー 断末魔の声で
ダー・ダー・ヤー・ヤー 地獄なんてどうに
ダー・ダー・ヤー・ヤー 見飽きてるんだから

テロルの子守唄 口づさみながらとび出した
銃弾の雨に こぶしを天に突きさしてた
奴は 帰らなかった

だからダー・ダー・ヤー・ヤー 見えすいた雨が
ダー・ダー・ヤー・ヤー オレ達を濡らすよ
ダー・ダー・ヤー・ヤー また冬が来たら
ダー・ダー・ヤー・ヤー 春のない冬だろう

6. プラハからの手紙

(EIN BRIEF VON PLAG /Original Version)

泥だらけ長靴を 脱ぎすて
靴下から出た指を さすってたら
アザラシみたいな 警備兵に
パスポートを銃で 求められた

夜が明けて そしてまた陽が暮れて
オレはプラハからの手紙を待っている
雪りかけた足を 抱きながら
雪の上に座りつづけてるよ ただじっと
I miss you so

ベリカンの夢で飢えをしのぎ
マックススウェーバーを燃やして 温りを得た
洞穴の弁護士はハンモックに揺られ
高いびきをたててるっていうのに

冬が終わり そしてまた春が来て
オレはプラハからの手紙を待ってる
ソドムの街が崩れ落ちるのを
たとえ石になっても 見届けたいのさ水の上で

崩れたトーチカで目隠しされ
こずかれながら 階段をのぼらされてる
乳首にクリップを挟まれたままで
彼女は神に感謝しつづけてるよ

生を受けて そして死が訪れて
オレはプラハからの手紙を待ってる
草に覆われた鉄条網の中を
シュプレヒコールだけが
勇ましく響くただ空々しく

黒い9月の未亡人
バルモフカの雑木林の中で
クレムリン・レターを奪い合うよ
還るべき処さえ失くしてるのに

夜が明けて そしてまた陽が暮れて
オレはプラハからの 手紙を待ってる
疼きだした 骨を鳴らして
汚れた長靴をはき直してる
雨になりそうだというのに

13. ひと粒の種になって

くだけ散るガラスのかけらに
君の声が聞きたくて
ころげまわってつかんだ
血まみれの確かさを

恥をさらしつづけた
この野郎と影をなくって
恥をさらしつづけた
ドジな俺だが

とめどなくあふれる涙で
みじめたらしくさらけ出す
宇宙に植えられるだろう
わかりやしないけどよ

負けた男の悔しさは
誰にも知られたくない
恥をさらしつづけた
浪花節なんて

全てが終わったとき
ひと粒の種になって
宇宙に植えられるだろう
誰も知らない処へ

そっと泣いて見せよう
負けた男のグチ話
卑怯者と人は言うだろう
でも俺は耐えられない

負けた男の悔しさは
誰にも知られたくない
負けた男の涙は
誰にも見られたくない

3. 4759

少女よ 少女 復活祭の夜に香水を投げろ
少女よ 少女 水晶の夜は香水を変えろ
山羊の乳房に育てられ
ラビの背中から翔いた
娘はWOW 鉄橋の上で
ルールに耳を当ててるよ Uh?短い夏だから

少佐殿 少佐殿 砕けた小瓶の宣告を受けろ
少佐殿 少佐殿 鏡の証言に頭を垂れろ

あの日 貴方の帰るのを
少佐殿 いつまでも待ちつづけた
娘はWOW 無名戦士の墓に
いまも足を運ぶよ はかない夏だから

7. ふりかえってみたら

ふりかえって見たら 闇の中に
ふりかえって見たら みんな消えていた
気がついてみたら 僕には何も
気がついてみたら 残ってはいなかった

眠れない夜に過去を思えば
耐え難い孤独と闘わなきゃならない

ふりかえって見たら 煙草の煙が
ふりかえって見たら 僕を包むだけ
涙をふいたら 見知らぬ人が
涙をふいたら 僕の首に縄を

話し相手でいいから だからこの僕を
思い出せない夢からひきずりだしてくれ

ふりかえって見たら
ふりかえって見たら

2 U~olive tour final

DISC-1

10. それでも私は

友達からは変わりすぎたと言われ
教師からは許せない奴と言われ
意味のない妥協の日々を強いられる
恋人からも頓落しすぎたと言われ

俺にはわからねえ 生きるという事が
自分の眼だけに頼って
頭から決めつける奴等が
それでも俺は求めつづける
何かを・・・何かを

愛と平和を叫ぶのが人生か
真実を求めつづける事が人生か
暖かい加護に包まれた
幸せな家庭が人生か
お金をたくさんもった
偉い奴になるのが人生か

俺にはわからねえ 生きるという事が
世間知らずと怒鳴りつけ
平気で嘘をつく奴等が
それでも俺は求めつづける
何かを・・・何かを

こんな俺をけなし続ける奴等を恨んでも
こんな俺をあやし続ける奴等を信じて
明日の事なんか誰にも分かりやしねえ
こんな俺を愛してくれるやつを抱きしめても

わきでる涙に自分の事を聞いてみただけれど
自由な空に憩いの場所を 聞いてみただけれど
涙も空も誰も何も教えてくりやしねえ
人は甘すぎるというだけさ

俺にはわからねえ 生きるという事が
何を悩む何が不満だとわめき続ける奴等が
それでも俺は求めつづける
何かを・・・何かを

その日その日が堅く結ばれていたならば
過去を無くして苦しみが消えるのならば
悩み苦しむ悲しむ貴方を
失わずにすむものを
こんな俺の行く道を導いてくれる奴等がいた
ならば

俺にはわからねえ 生きるという事が
幸せに生きる奴等と
俺との間にある壁が何か
それでも俺は求めつづける
何かを・・・何かを

4. 聖樹

Pablo 光も陰も
一枚の絵に閉じ込められた 夢と嘘を携え
Hil da 無言の叫び
Hil du 行き場を失くし 聖樹は見えていた
黒い種が降りそそげば
炎の花が咲き乱れる 聖樹は見えていた

緑線の焼けこげた夜着も
聖衣の涙で燃える
家も街も文明も みんな燃やせばいい
Gernika

Pablo 星が降りる夜は
Sabbat 血で血を洗う時 Petroはおまえだ
Hil da 悲劇を残し
Hil du さ迷う罪人を 聖樹は見えていた
黒い傘が覆い被されば
永遠の闇が口を開ける 聖樹は見えていた

人の気配も絶えた街に
救世主は聖書をばらまく
家族 一族 民族も みんな塵になるさ
Gernika

8. 時々吠えることがある

時々吠えることがある 空に向かってか
ひとりて 吠えることがある
風が強くて 歩けないことも
ぬかるみに 足をとられることも
時々迷うことがある 死に向かってか
ひとりて 迷うことがある
青いリングを かじれないことも
ジュネの日記を 頼りにすることも

ほら見えるだろう 誘いの魔の手が
いたるところに
見えるだろう
でも ひるんじゃいけない
そのすまから毒が
流し込まれるんだから

時々あせることがある 現実に対してか
ひとりて あせることがある
先が暗くて 見えないことも
ダダの影を 頼りにすることも

11. 光り輝く少女よ

光輝く少女よ あなたの未来のた為に
とぼくはつぶやいてた いつのまにか
街並みに消えゆく夢よ さようなら
とぼくはつぶやいてた どういうわけか
夢は さめている さめてはいない

今豊いかるだろう 絶望よ さあ
とぼくは叫んでいた 暗闇の中で
波に背を向ける少女よ いつか夢を見たい
とぼくは叫んでいた 閉じた睡の奥で
少女は 来てくれる 去っていく

愛は枯れていく もう帰らない
光り輝く少女よ いとしい人よ
とぼくは子供の様に 泣き叫んでいた
光り輝く少女よ ぼくは夢を見たい
光り輝く少女よ あなたの胸の中で
光り輝く少女よ 離れないで
光り輝く少女よ 去っていかないで

14. 夜明けはまだ

夜明けはまだ 俺は待っているのに
夜明けはまだ 雲が流れているのに

音ざめた時間よ 俺を見てくれ
そして 話しかけてくれよ
おまえだけだよ 俺を信じてくれるのは

夜明けはまだ 俺は待っているのに
夜明けはまだ 俺が待っているのに

星に祈る少女よ 手を差し出して
そして 俺を抱いてくれよ
さみすぎるよ 俺が考えていることは

音ざめた時間よ 俺を見てくれ
そして 話しかけてくれよ
おまえだけだよ 俺を信じてくれるのは

夜明けはまだ 俺は待っているのに
夜明けはまだ 俺が待っているのに